

快適で賑わいのある歩行者空間（地下歩道）を創出！

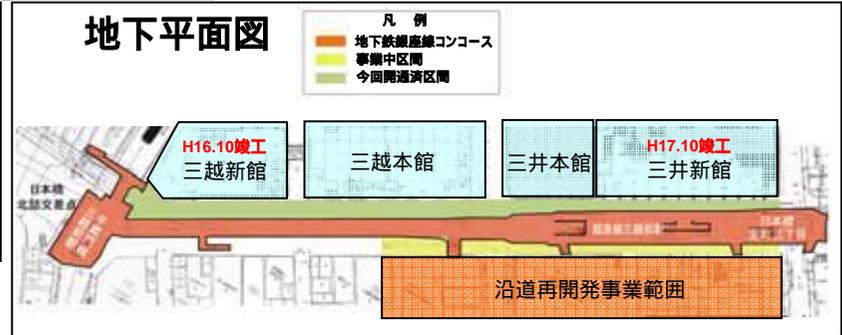
数世紀に渡る経済の中心拠点日本橋

日本橋は、全国に通じる5つの街道の起点であり、かつては政治、文化、経済の中心地として発展。しかし、景気低迷により、賑わいを失いつつある。一方、日本橋界隈にて、更新時代を迎えた建物の建替えと共に再開発事業が具体化し、地域活性化の気運が高まっている。

位置図



地下平面図



沿道再開発事業と一体となった歩行者空間

沿道再開発事業、地下歩道整備により、地上、地下の歩行者交通量が増加。(賑わいが復活)
地下歩道整備後は、住民、通勤者、来訪者ともに、地下歩道の快適性が向上と評価。
沿道事業と一体整備により、沿道側土留杭を活用し、地下歩道の仮設費約1億円のコスト縮減。

整備状況写真

【整備前】



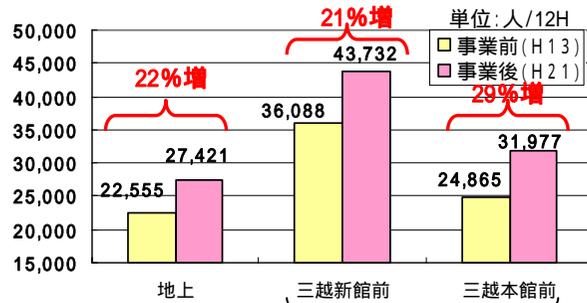
【整備後】



歩行者空間(地下歩道)の整備効果

【歩行者交通量の変化】

歩行者交通量が増加し、賑わいが復活！



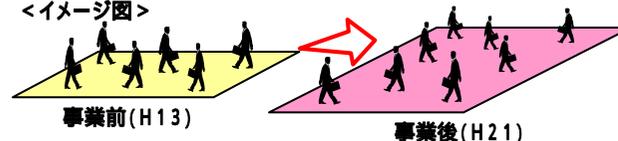
交通量データの出典は以下の通り
事業前(地上): H11道路交通センサス値
事業前(地下): H13.11.27歩行者交通量調査値
事業後: H21.3.10歩行者交通量調査値

【地下歩道のサービス状況】

歩行者交通量の増加(賑わい)に加え、快適性が向上！ 地下歩道利用の多くの方が快適になったと評価！

		ピーク時交通量(人/時)	有効幅員(m)	通行量有効幅員(m/人・分)
三越新館前	事業前(H13)	5,981	8	0.08
	事業後(H21)	6,479	17	0.16
三越新館前	事業前(H13)	4,175	8	0.11
	事業後(H21)	5,625	16	0.17

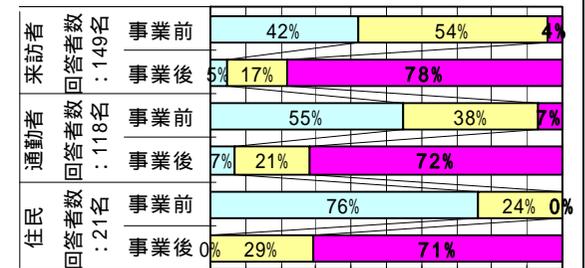
<イメージ図>



(交通量データの出典は左記の通り)

【満足度(地下通路拡幅前後の快適性の評価)】

歩行者交通量の増加(賑わい)に加え、快適性が向上！ 地下歩道利用の多くの方が快適になったと評価！



□ 不満・どちらかという不満
□ 普通
■ 満足・どちらかという満足

(平成20年度国土交通省東京国道事務所アンケート結果)